

R1 年度 芽室町議会ミニフォーラム(公開議員研修会)

その他資料 1

「未来志向の課題解決手法を学ぶ」
～ワークショップ 2030SDGs から～

■趣旨：

芽室町議会は、議会基本条例の理念に則り多様な活性化ツール整備と体制確立等、継続的な議会改革を進めてきているが、今後、議会活動が真に住民福祉の向上につながるためには、より実のある改革・活性化の推進が不可欠である。

また今年度、町は今後8年間のまちづくりの最上位計画である「第5期総合計画」をスタートしたところであり、その目標実現のため、未来のまちの「あるべき姿」を明確に意識しつつ、ときには大きな変化を生み出しながら現状の課題を解決していく必要があることから、総合計画目標実現に向け、「あるべき姿から解決策へと導く」課題解決手法と思考プロセスについて、体験を通じて学ぶ機会とする。

■日程・会場

○日程：令和2年3月20日（金・祝）14時～17時

○会場：中央公民館2F講堂

■構成：

- | | | |
|---|------|---------|
| ①開会の挨拶 | (5分) | ～早苗 議長 |
| ②「未来志向の課題解決手法を学ぶ ～ワークショップ2030SDGsから～」(160分) | | |
| ファシリテーター：一般社団法人 イマココラボ 森本 菜都美 氏 | | |
| (1) 趣旨・手法説明 | | ・・・10分 |
| (2) カードゲーム(SDGs2030) | | ・・・90分 |
| (3) 振り返りと講義 | | ・・・60分 |
| ④閉会の挨拶 | (5分) | ～常通副 議長 |

■参加者：参加者先着40人以内・町民限定（町内への通勤等含む）

○芽室町議会議員16人

○町民（町内活動団体・議会モニター（経験者含む）・議会改革諮問会議委員他）

周知方法：議会だより（3月号）、上記モニター等には個別通知、他報道等

申し込み期限：3月16日（月）

■中止の判断

①講師等が来られない

a. 数日前から講師が来られないことが判明している場合

○代役派遣できないか交渉

⇒代役も無理な場合

☞当日は中止（再日程とするかは後日検討）

b. 当日（前日）になって講師が来れないことが判明した場合。

○中止

②天候による影響ほか(講師が来ている)

○基本的には実施

○災害時は中止－前日の夜に天候予測を判断（正副）

■当日の準備事項

○プロジェクター、

○スクリーン・マイク・スピーカー・ホワイトボード（マグネット可能タイプ）・
マーカー・マグネット（緑・青・黄 各複数）

○机・テーブル・椅子（会場設置あり）、

■予算

○244,000円（ファシリテーター登壇料150,000円＋受講料1,000円/人＋消費税
＋交通費35,000円）

■当日の役割分担

○会場準備・受付：議運委員、事務局

○進行アシスタント（1人）：事務局

(参考)

■「SDGs」とは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称。(発音はエス・ディー・ジーズ) 17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成。

SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標。



国内では、SDGsに関して政府主導で取り組みがある。

→SDGsアクションプラン2019 (内閣府 2019年発表)。

『SDGsアクションプラン2019』のポイント

- 日本は、豊かで活力のある「**誰一人取り残さない**」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「**人間の安全保障**」の理念に基づき、世界の「**国づくり**」と「**人づくり**」に貢献していく。
- 『SDGsアクションプラン2019』では、次の3本柱を中核とする日本の「SDGsモデル」に基づき、『SDGs実施指針』における8つの優先分野に総力を挙げて取り組むため、2019年におけるより具体化・拡大された政府の取組を盛り込んだ。
- 2019年の**G20サミット**、**TICAD7**、**初のSDGs首脳級会合**等に向けて、①国際社会の優先課題、②日本の経験・強み、③国内主要政策との運動を踏まえつつ、以下の分野において**国内実施・国際協力**の両面においてSDGsを推進。

I. SDGsと連動する「Society 5.0」の推進	II. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり	III. SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント
中小企業におけるSDGsの取組強化 > 大企業や業界団体に加え、中小企業に対してもSDGsの取組を強化。 > 「SDGs経営/ESG投資研究会」の開催等を通じて、『SDGs経営イニシアティブ』を推進。TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言を踏まえ、企業の取組を促進。 > 『中小企業ビジネス支援事業』を通じた途上国におけるSDGsビジネスの支援。 科学技術イノベーション(STI)の推進 > 統合イノベーション戦略推進会議下の「STI for SDGsタスクフォース」で、『ロードマップ』やそのための「基本指針」を策定。「STI for SDGsプラットフォーム」の立ち上げも準備。 > STIフォーラムやG20関連会合を通じ、国際社会における議論を促進。	SDGsを原動力とした地方創生 > SDGs未来都市の選定、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム等を推進。 > 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2025年大阪・関西万博を通じたSDGsの推進。 > ICT等先端技術を活用した地域の活性化。 > スマート農林水産業の推進。 強靱かつ環境に優しい循環型社会の構築 > 国内外における防災の主流化の推進。 > 質の高いインフラを通じて連結性を強化。 > 海洋プラスチックごみ対策を含む持続可能な海洋環境の構築。 > 地域循環共生圏づくりの推進。 > 日本の技術・経験を活かした気候変動対策への貢献。 > 省エネ・再エネ等の推進。	次世代・女性のエンパワーメント > 「次世代のSDGs推進プラットフォーム」を始動し、国内外における具体的な取組を推進。 > 3月に同時開催するWAW!(国際女性会議)とW20(G20エンゲージメント・グループ会合)において女性活躍のための方途について議論。 教育・保健分野における取組 > 国内で、幼児教育から高等教育まであらゆる段階において「質の高い教育」を実施。 > G20関連会合やTICAD7を通じ、日本の経験を共有しつつ、国際教育協力やUHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)を推進。
展開とフォローアップ	> 日本のSDGsモデルを、東南アジア・アフリカを重点地域としつつ、国際社会に展開していく。 > 国際的な指標等に基づいて、これまでの取組をレビューし、2019年後半に『SDGs実施指針』を改訂。	

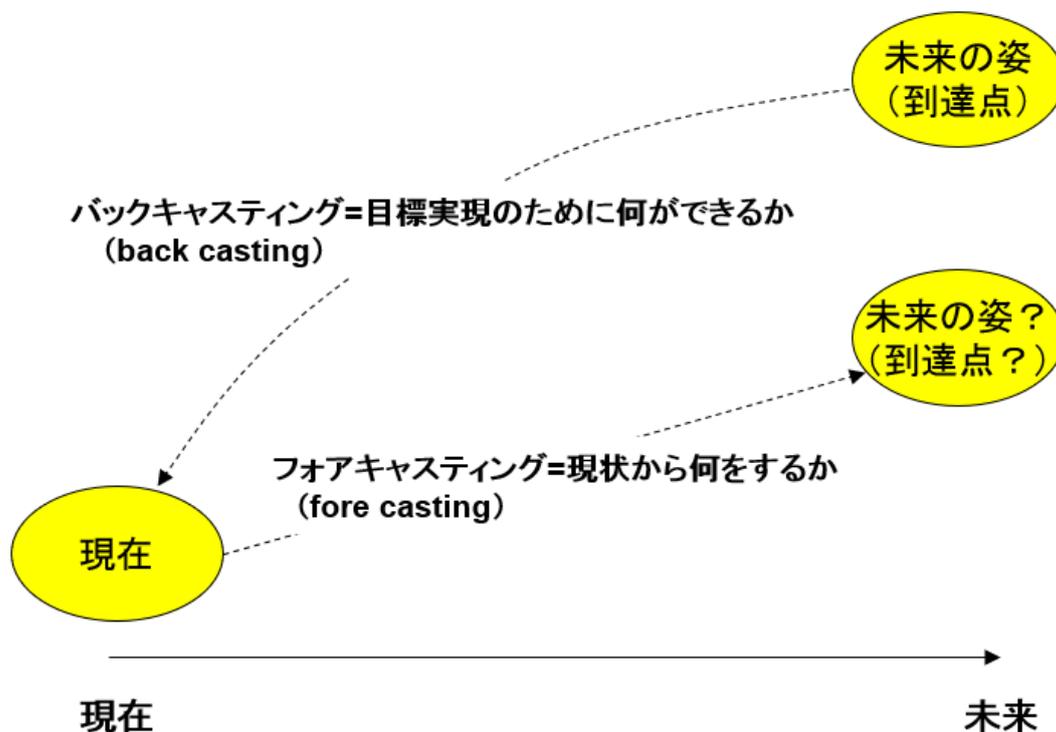
■ 「フォアキャストリング」と「バックキャストリング」

「フォアキャストリング」: 現状からどんな改善ができるかを考えて、改善策をつみあげていくような考え方。現状を考えた改善的なアプローチ。

(例) 現在持っている資源から考えて適度なチャレンジを設定するのはフォアキャストリング。

「バックキャストリング」: 未来の姿から逆算して現在の施策を考える発想。創造的破壊を生み出すアプローチ。

(例) どうしても必要な目標を設定し、やり方を後からなんとかして考える、というのがバックキャストリング。



○この2つの考え方はどちらが優れているという性質のものではなく、本来はケースバイケース、相互補完的なもの。

○SDGs 自体はバックキャストリングの発想で作られている。「具体的なやり方はわからないけど、とにかく私たちの世界は2030年にはこういう状態になっている必要があるのだ」と、相応にチャレンジングな目標として設定されている。

→通常組織でSDGsを実行に移そうとしたときに、実現可能性に疑問符がつく。

→ 組織内でSDGs的な施策を形にしていこうと思うならば、組織内での平均的理解度の向上だけでは不十分。

→ 同時に創造的破壊を起こすような、リーダーシップやイノベーションといった動きを加速させる仕組みも必要。

(出典: イマコラボから URL: <https://imacocollabo.or.jp/blog/backcasting/>)